

愛知県家庭教育支援チーム交流会



【参加者一同で記念写真 皆が笑顔でつながりました】

I 概要

- 1 日 時 令和6年11月27日（水）午後1時15分～午後4時00分
- 2 会 場 愛知県庁三の丸庁舎 大会議室
- 3 参加チーム

【愛知県家庭教育支援チーム登録団体】

No.	チーム名	呼称
1	長久手市家庭教育支援チーム	一般社団法人次世代育成支援機構 みどりの風
2	春日井市家庭教育支援チーム	NPO 法人 あいちかすがいっこ
3	清須市家庭教育支援チーム	チーム MOMO
4	一宮市家庭教育支援チーム	子育てネットワーカー一宮
5	一宮市家庭教育支援チーム	きらり
6	稲沢市家庭教育支援チーム	NPO 法人 ふぁみりい・らぼ
7	犬山市家庭教育支援チーム	NPO 法人 こどもサポートクラブ東海
8	東海市家庭教育支援チーム	一般社団法人 子どもねっこ育社
9	東海市家庭教育支援チーム	パパママ学級東海～産前産後ケア～
10	東海市家庭教育支援チーム	自閉スペクトラム症啓発グループ Smile
11	大府市家庭教育支援チーム	～教育の機会をつなぐ～ 三つ葉
12	知多地区家庭教育支援チーム	NPO 法人 Smiley Dream
13	岡崎市家庭教育支援チーム	マリッジコミュニティ
14	愛知県教育委員会家庭教育支援チーム	家庭教育コーディネーター・ホームフレンド

「ねんねサロン岡崎」「NPO 団体 O_COLOR」「NPO 法人なごや Asoviva」

「特定非営利活動法人 ing」「I ぎゅっと パパママ学級知多 ～産前産後ケア～」

「幸田町子育てネットワーカー」の皆様や行政の担当者にも御参加いただきました。

Ⅱ 内容

1 開 会（午後１時 15 分～午後１時 30 分）

- ・主催者あいさつ
- ・趣旨説明・県の施策説明

2 事例発表（午後１時 30 分～午後１時 50 分）

（発表者）稲沢市家庭教育支援チーム

NPO法人 ふぁみりい・らぼ 代表 川口 ゆかり 氏

「社会で子どもを育てる」

3 情報交換会（午後２時 10 分～午後３時 10 分）各グループの記録の概要（抜粋）

<協議題>

自分たちのチームが抱える課題点を、他のチームはどのように工夫していて、どう解決しているのか。

【協議題ア 広報や活動報告】

<アー１>

- ・インスタグラムを中心に行っている。もっと情報を更新していきたい。
- ・SNSはよいが、見ていない人に対してどのようにフォローするとよいか。
- ・自治体により、チラシを置くことができる場所は限られている。
- ・市に関わってもらえると信頼につながる。最初は信頼を得るのが難しい。



<アー２>

- ・行政との連携が難しい。
- ・予算がつかないと難しい。予算がつけば、有償ボランティアをお願いしたい。
- ・市の生涯学習課に依頼して、チラシを置かせてもらっている。
- ・近くの方に協力してもらい、資金援助をしてもらう。



【協議題イ 新しいメンバーの募り方・人材育成】

<イー１>

- ・子育てネットワーカーを育てたい。魅力的な活動にしていけることが大切。
- ・学生ボランティアを活用している。告知はSNSを活用している。
- ・支援される側が支援をする側になるのは難しい。
- ・本当に情報を届けたい人に、活動や団体の情報を届けることは難しい。

<イー２>

- ・設立して間もないため、団体の活動内容をどのように広げていくのが課題。
- ・団体を運営する後継者となる人がいない。
- ・親子で参加できるイベントを開いても、子供の参加が少ない。
- ・日頃から無理をさせないことが大切。日頃の活動の中での声かけを大切にしている。

【協議テーマ 一つの企画に対して、どのように準備をしているか 広報や活動報告】

<テーマ1>

- ・企業と連携する場合には、企業側のメリットについて考える。チラシに広告を入れる。
- ・インターネットの情報に振り回されている保護者は多い。
- ・ボランティアでできることには限界がある。
- ・有償ボランティアという考え方を広げてほしい。

<テーマ2>

- ・隙間時間で準備ができるように、役割分担をしている。
- ・集まれる時に集まるようにしていて、オンラインで打ち合わせをすることもある。
- ・広報については、中学生や高校生にはSNS、小学生には紙がよい。
- ・県の研修会で専門的な話を聞くと自分なりに学ぶことができ、自分の成長につながる。

【協議テーマ 他団体・企業・自治体等との連携】

<テーマ1>

- ・今すぐに助けてほしいということに対してすぐに応えられるようにしたい。
- ・お金の支援は大切だが、要支援者に寄り添うことも大切。
- ・行政の担当者が代わることも考えて、団体として将来を見据えていかないといけない。
- ・子供を支援する団体と大人を支援する団体がつながってもよいと思う。

<テーマ2>

- ・プロでない人に預けることに抵抗がある人が多いため、資格の取得が有効。
- ・市の補助を受けて託児ができる事業があるとよいが、費用面の問題がある。
- ・予算が削られて一番困るのは利用者。
- ・運営の規模を広げると費用がかかるため、対象となるターゲットを絞っている。



【行政関係者】

- ・家庭教育と学校、福祉部局との連携が大切。
- ・家庭教育と子育て支援で事業により内容が重複してしまうことがある。
- ・学校にチラシ配付を依頼しても、参加が少ないため、広報力がある団体に委託することがある。



情報交換会では、四つの協議テーマに対して、各団体が事前に参加するグループを決めた上で話し合いに参加しました。課題の共有・解決に向けて話し合い、情報交換会の時間を前半と後半で区切り、同じ協議テーマで話し合っている隣のグループとメンバーを交代して話し合うことで、様々な視点から課題についての理解を深める姿が見られました。

4 全体交流会（午後3時20分～午後3時50分）

※ 情報交換会・全体交流会 ファシリテーター

NPO法人 Smiley Dream 顧問 櫻井 雅美 氏



全体交流会では、ファシリテーターの進行により5人のグループをつくり、他のチームのメンバーや行政関係者と積極的に意見交換をする姿が多く見られました。

5 閉会（午後3時50分から午後4時00分まで）

【総括：櫻井 雅美 氏】

- ・ 団体の広報はSNSをうまく活用し、活動は支援の専門性が高くなってきているので、それぞれが得意分野を生かして、互いサポートし合いながら続けていくことが大切。
- ・ 企業や自治体や他の団体と連携するという話題の中で、5年後、10年後どうなっていくのかということを少し考える必要がある。自治体職員の異動をデメリットとしてとらえるのではなく、家庭教育支援チームが社会の軸になって連携をしていくことが大切。

Ⅲ 参加者の感想

- ・ 参加者の方の活動への熱意に元気をもらうことができた。
- ・ テーマごとに交流ができるよう自由度をもたせているところがとてもよかった。
- ・ 活動する上での困りごとやそれに対する対処方法への考え方の一端を聞くことができて大変参考になった。
- ・ 同じ課題を抱えたグループ内で話し合ったため、解決に向けて多くの情報を得たり、解決策を考えたりすることができた。うまく運営されている団体が悩みを抱えている団体に情報を伝達できる場があってもよい。
- ・ 多くの団体の方と話す機会があり、とてもよかった。来年は、もっと多くの団体や行政の関係者に参加してもらえるとよい。
- ・ 企業と連携している団体の話を次回は聞いてみたい。今回の交流会を機会に、視察に行きたいと思う。交流会がなかったら出会うことができなかった。
- ・ 家庭教育支援について様々な形があることが分かった。各団体が活動の目的を明確にして場のもち方や広報の工夫などをして運営されていることを知り参考になった。
- ・ 県や市の取組、財源について話題になることが多かったので、行政と私たちが今以上によりよい関係やつながりをもてる取組が大切だと思った。